

平成29年度第1回

中小企業景況調査報告書

平成29年	4月～	6月期	報告
平成29年	7月～	9月期	予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成29年4月～6月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 勝浦市商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、白井市商工会、鋸南町商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成29年4月～6月を対象とし、調査期間は平成29年5月21日～6月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比
製造業	29	17.5%
建設業	27	16.3%
小売業	42	25.4%
サービス業	67	40.6%
合計	165	

(小数点1位以下四捨五入)

(2)業種別構成

① 建設業

業種	回答企業数	構成比
総合工事業	13	48.1%
職別工事業	12	44.4%
設備工事業	2	7.4%
合計	27	

(小数点1位以下四捨五入)

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比
食料品製造業	12	41.4%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	6.9%
家具・装備品製造業	1	3.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.4%
印刷・同関連業	1	3.4%
窯業・土石製品製造業	1	3.4%
金属製品製造業	3	10.3%
精密機械器具製造業	1	3.4%
その他製造業	7	24.1%
合 計	29	

(小数点 1 位以下四捨五入)

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比
各種商品小売業	2	4.8%
織物・衣服・身の回り品小売業	5	11.9%
飲食料品小売業	23	54.8%
家具・建具・じゅう器小売業	3	7.1%
その他小売業	9	21.4%
合 計	42	

(小数点 1 位以下四捨五入)

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比
一般飲食店	25	37.3%
宿泊業	5	7.5%
運送業	2	3.0%
自動車整備業	13	19.4%
洗濯・理美容業	12	17.9%
その他のサービス業	10	14.9%
合 計	67	

(小数点 1 位以下四捨五入)

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

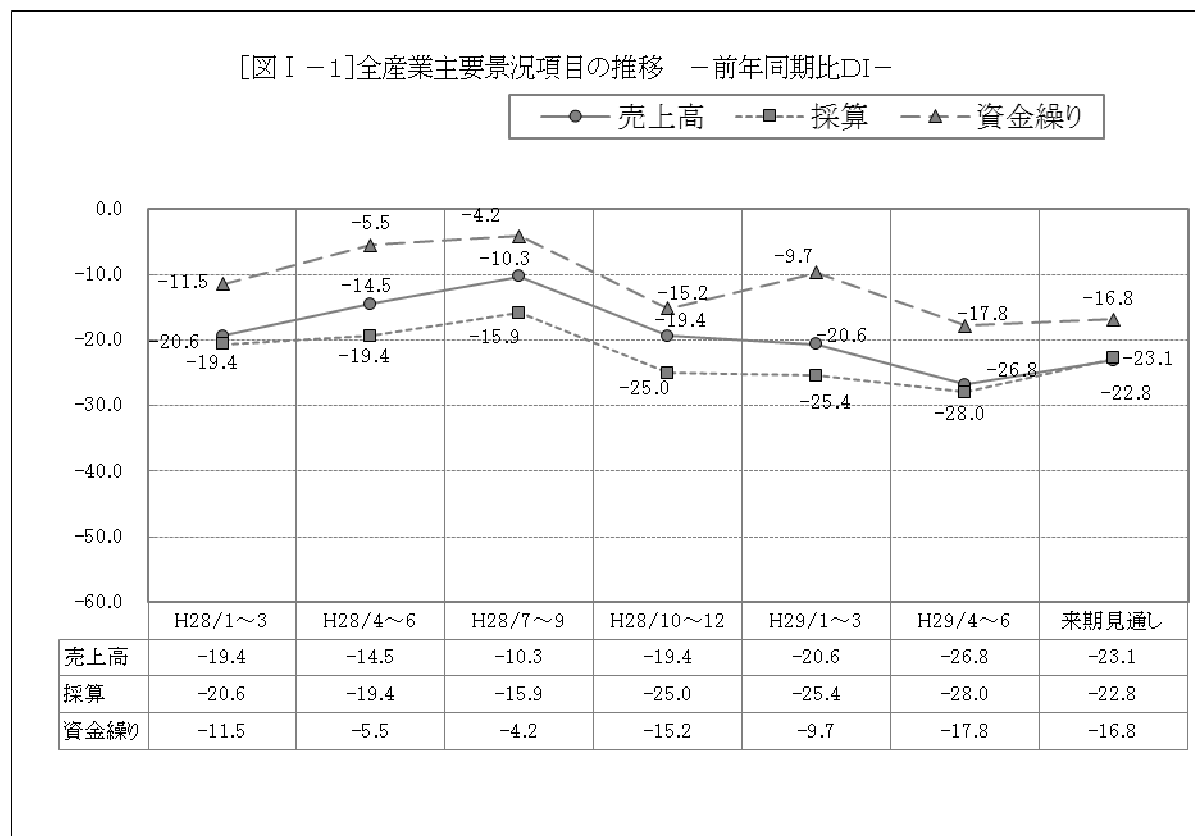
“業種によるバラツキがあるものの、来期以降回復の兆しあり”

千葉県商工会地区の平成 29 年 4～6 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-26.8、前期（平成 29 年 1～3 月期、-20.6）比で 6.2 ポイントマイナス幅が拡大。同採算 DI 値は-28.0、前期（-25.4）比で 2.6 ポイントマイナス幅が拡大。資金繰り DI 値は-17.8、前期（-9.7）比 8.1 ポイントマイナスで、全ての項目で悪化している。

また、前年同期（平成 28 年 4～6 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-14.5）比で 12.3 ポイントマイナス。採算 DI 値については、前年同期（-19.4）比で 8.6 ポイントマイナス。資金繰り DI 値は、前年同期（-5.5）比で 12.3 ポイントマイナス幅が拡大し、前年同期の DI 値と比較しても全項目で悪化している。

業種別にみるとバラツキがあり、今期、製造業と建設業においては、前期とは対照的に受注が比較的好調だった。製造業は売上高 DI 値のマイナス幅が縮小し、建設業はすべての項目で DI 値が改善している。また、公共料金等の値上げにより、消費マインドが伸び悩んだ小売業とサービス業については前期とは対照的で、すべての項目において DI 値のマイナス幅が拡大している。














来期（平成 29 年 7～9 月期）については、世界経済も安定しており、レジャーシーズン到来やボーナス商戦などプラス要素が大きいことから、すべての項目で DI 値は改善する見通しである。



II. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“受注が安定しており、景気は回復傾向”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における製造業の景況は、売上高 DI 値は-10.3 ポイントで、前期（-17.9 ポイント）比で 7.6 ポイントマイナス幅が縮小。採算 DI 値については-25.0 ポイントで前期（-25.0 ポイント）と同じで変化なし。資金繰り DI 値は-17.8 ポイントで、前期（-10.7 ポイント）比 7.1 ポイントマイナス幅が拡大している。

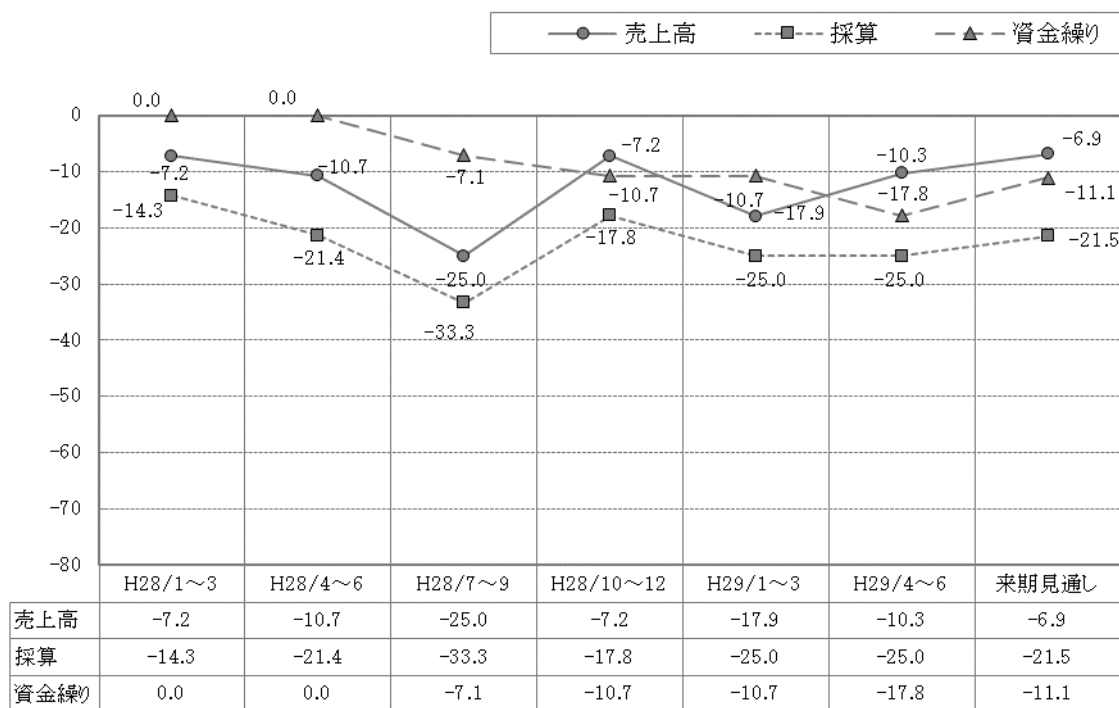
前期同様、需要の停滞や製品（加工）単価の低下・上昇難が経営上の大きな問題点を感じる事業者は依然として多く、製品ニーズの変化や熟練技術者の確保難を問題点とする事業者が増加してきている。これに対して、利益率向上にかかわる取り組みが課題で、付加価値化することで、労働生産性の向上を図る必要がある。

一方で、設備操業率が向上し、従業員の確保難、原材料の不足や原材料価格の上昇といった問題を抱える事業者は前期と比べるとやや改善されており、生産が増加したことで、景気回復に改善の兆しがみられる。

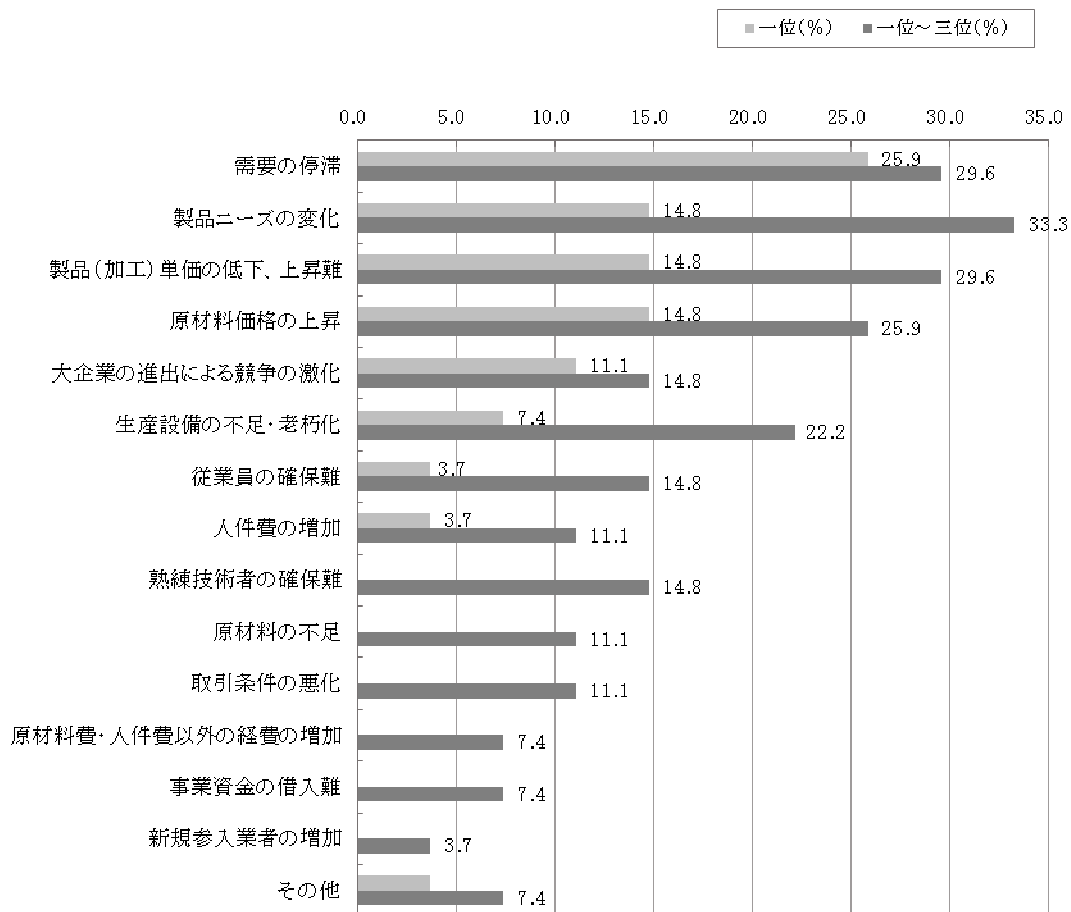
来期については、為替相場も安定しており、人手不足が解消されると考えられることから、すべての項目で DI 値は改善する見通しである。

今期は新規設備投資については 2 社が実施。内訳は工場建物、生産設備、付帯施設となっている。また、生産設備の不足・老朽化を問題とする事業者が増加した影響か、来期は 5 社が計画しており、工場建物、生産設備、OA 機器、福利厚生施設の導入を予定している。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“新規契約工事の増加により、景況は回復”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、民間需要が比較的好調で、新規契約工事件数は増加している。また、人件費の増加の問題にする事業者が改善されたことから、売上高 DI 値が-14.8 ポイントで、前期（-39.3 ポイント）比で 24.5 ポイントマイナス幅が縮小。採算 DI 値についても-22.2 ポイントで前期（-32.2 ポイント）比 10.0 ポイントマイナス幅が縮小した。資金繰り DI 値も-22.2 ポイントで、前期（-25.0 ポイント）比 2.8 ポイントマイナス幅が縮小しており、すべての項目で DI 値は改善している。

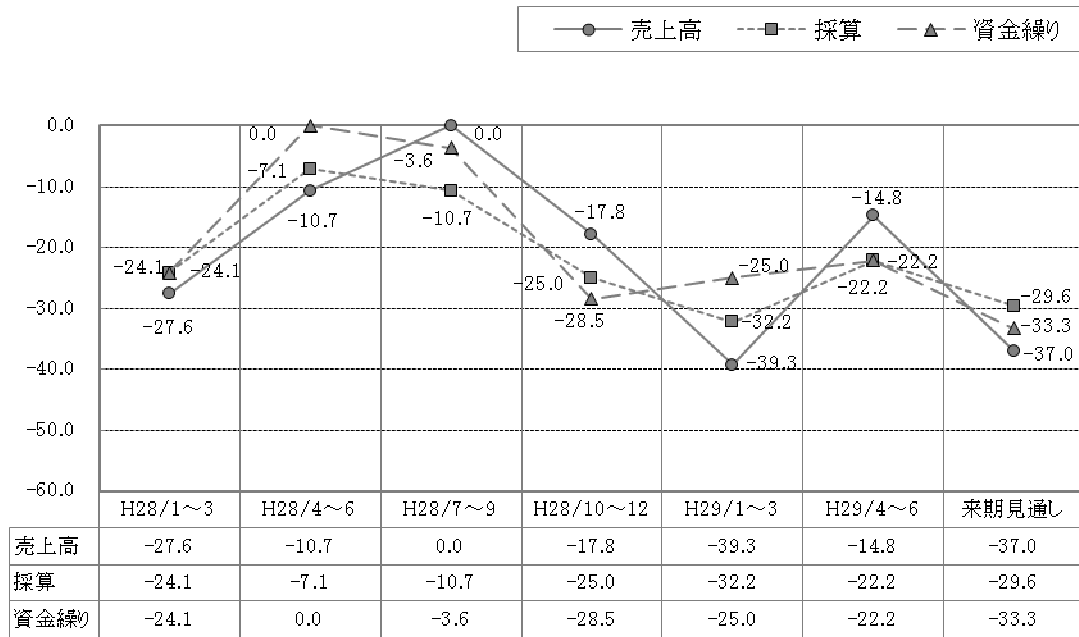
一方、前回に続き、公共工事については大規模事業者中心に受注が偏っていて、小規模事業者への受注機会が減少しており、大企業の進出による競争の激化を問題とする事業者が増えていることから、格差は拡大していると考えられ、小規模事業者への官公需要は停滞している。

また、請負単価の低下・上昇難、従業員の確保難、取引条件の悪化、材料価格の上昇を問題視する事業者は依然多く、東京五輪関連工事による好景気の兆しが見えている中、熟練技術者の確保が困難になってきており、仕事の受注に影響が出てしまう程の人手不足が起きている。

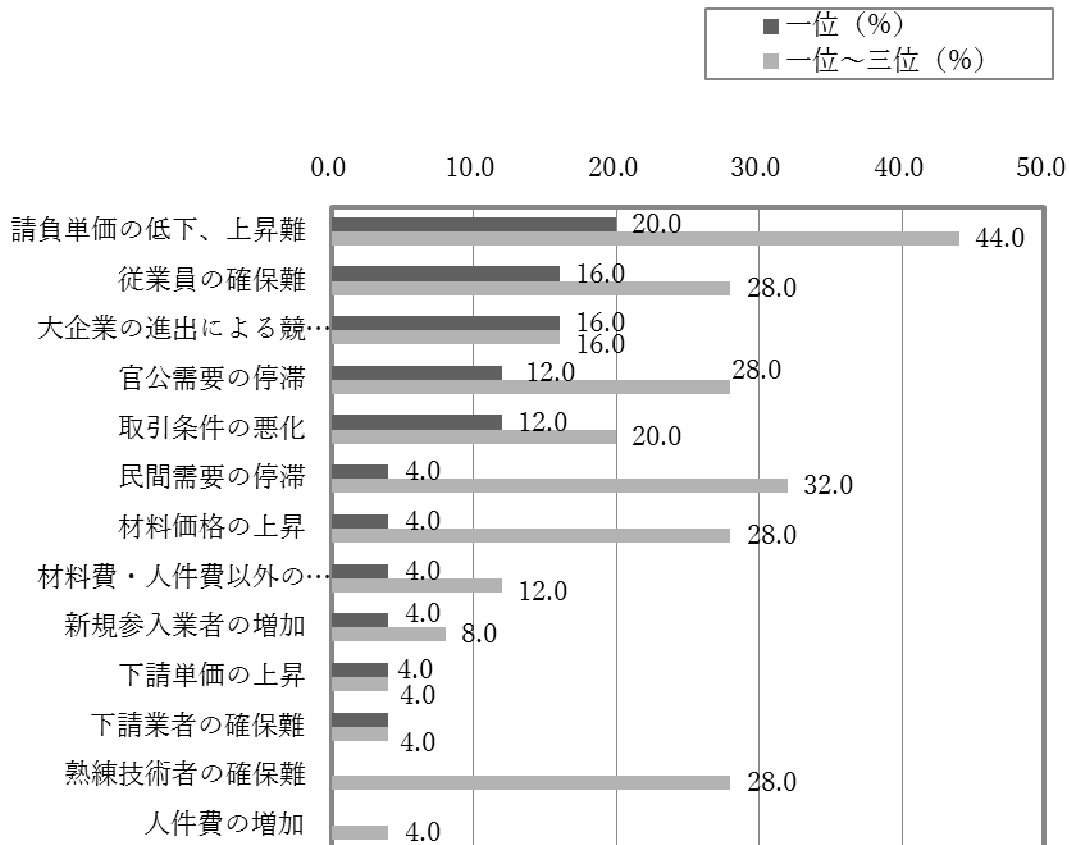
来期については、引き合い件数の減少や人手不足による機会損失等の不安材料により、全項目において DI 値は悪化する見通しである。

新規設備投資について、今期は 4 社が実施。内訳は建設機械、車両・運搬具となっている。来期計画は 1 社が予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“消費マインドが弱く、魅力的な店舗づくりが課題”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における小売業の景況については、公共料金や日用品等の値上げが相次いだため、消費マインドに弱さが見られた。売上高 DI 値は-40.6 で、前期(-11.4)よりも 29.2 ポイントマイナス幅が拡大している。採算 DI 値についても-30.9 で、前期(-15.9)から 15.0 ポイントマイナス幅が拡大。資金繰り DI 値についても-11.9 で前期(2.2)から 14.1 ポイントマイナス幅が拡大しており、全項目の DI 値が大幅に悪化している。

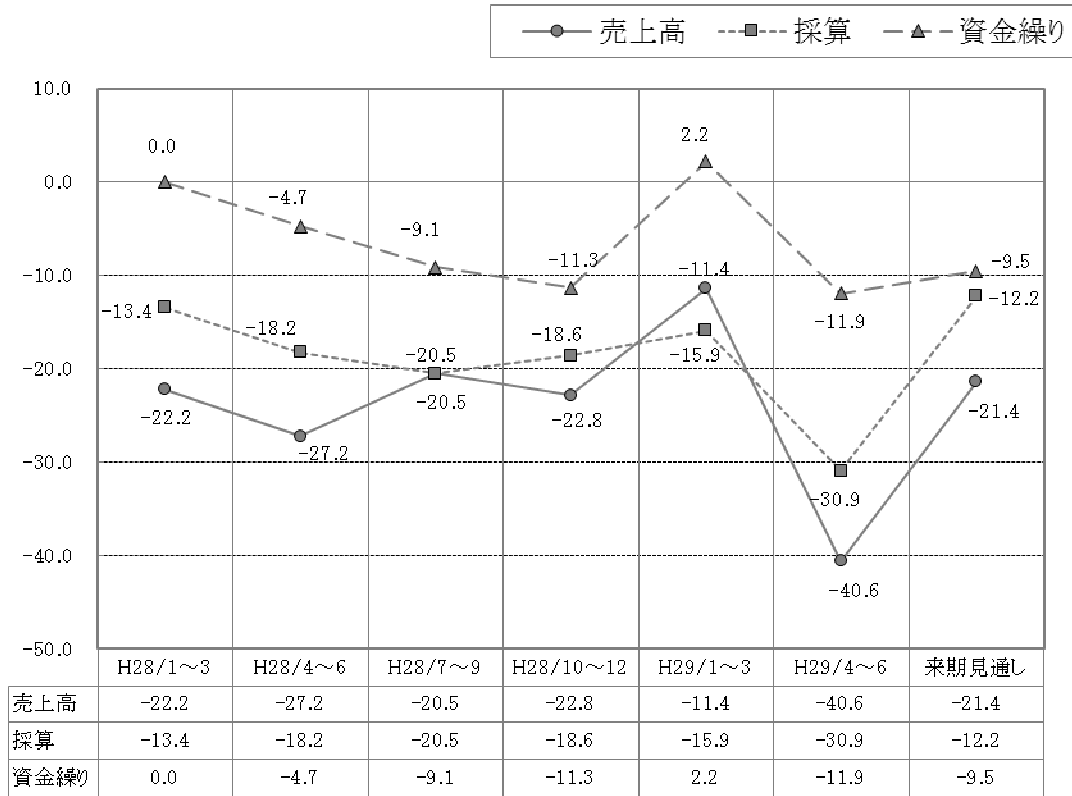
前期と同様に大型店・中型店の進出、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化、需要の停滞の上位 4 つの問題点をあげる事業者は変わらず多い。これに加え、仕入れ価格の高騰といった問題点も発生しており、価格競争に対応できなくなったと考えられ、結果として、客単価・客数がともに減少している。

差別化が十分に行われておらず、価格以外の魅力や独自性を顧客にアピールできていないため、引き続き、品揃えや POP、商品陳列方法など売り場の工夫などの魅力的な店舗づくりが課題である。

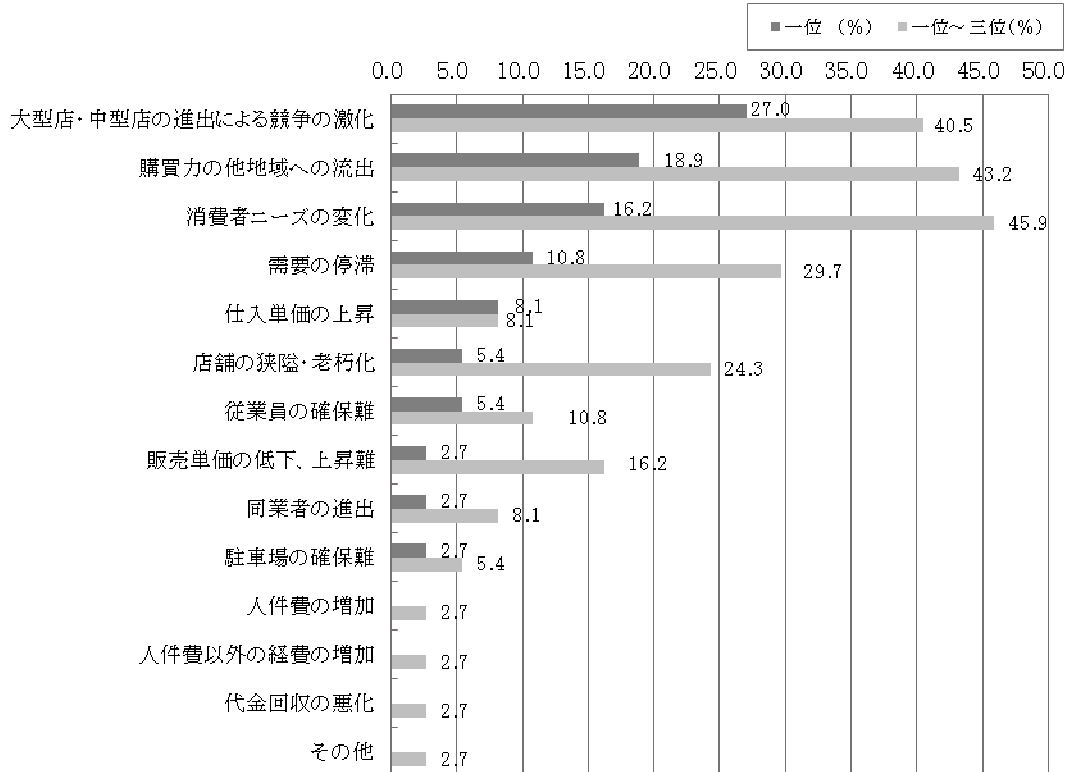
来期に関しては、夏商戦への期待もあり、すべての項目で DI 値は持ち直す見通しである。

新規設備投資については、今期は 5 社が実施。内訳は、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器を導入している。また、来期計画は 6 社で、土地、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設などの導入を予定している。

[図II-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図II-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“新規参入業者の増加で競争力が低下、更なる努力が必要”

	今期の景況	来期の見通し	
			 :DI 値 +30～
売上高			 :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

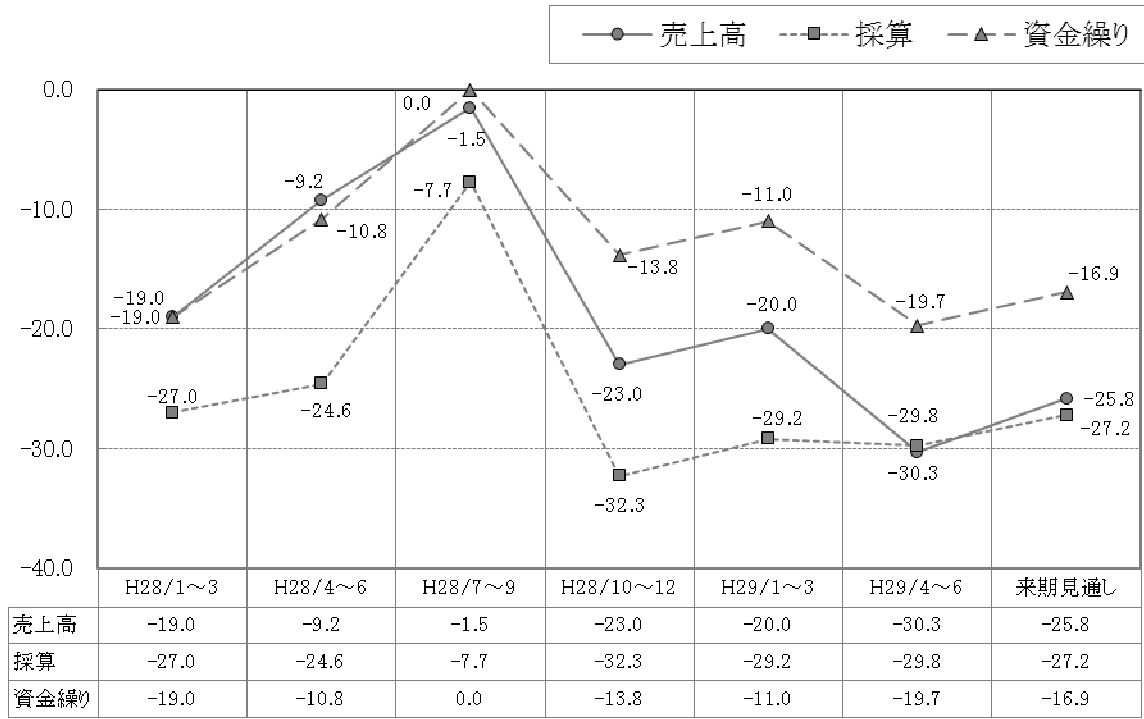
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、ゴールデンウィーク期間中の売上はあったものの、その後の冷え込みが大きく、結果的に、売上高 DI 値については、-30.3 ポイントで、前期（-20.0）より 10.3 ポイントマイナス、採算 DI 値についても、-29.8 ポイントで前期（-29.2）から 0.6 ポイントマイナス、資金繰り DI 値も -19.7 ポイントで前期（-11.0）から 8.7 ポイントマイナスで全項目において DI 値が悪化している。

前期から引き続いて、需要の停滞、利用者ニーズの変化、大企業の進出による競争激化、店舗施設の狭隘・老朽化、材料等仕入単価の上昇、利用料金の低下・上昇難を問題とする事業者が多い。また、今期は新規参入業者の増加が増えていることから、差別化や店舗施設の改築、宣伝方法など集客につながるような取り組みやその後のリピート施策による販促策の決定が必要である。

来期については、レジャーシーズンの需要が見込めるため、売上高、採算、資金繰り DI 値は、それぞれ改善する見通しであるものの、先行きの不透明感が残る。

なお、新規設備投資については、10 社が実施。内訳は、建物、サービス設備、車両・運搬具、付帯施設となっている。また、来期の計画では 8 社が、建物、サービス設備、車両・運搬具、付帯施設などの導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

